

畜研だより

発行 富山県農林水産総合技術センター
畜産研究所
〒939-2622 富山市婦中町千里前山1
TEL 076-469-5921 FAX 076-469-5945
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/chikusan/>

新年号

新たな「富山県農林水産試験研究推進プラン」と 本県畜産業の持続的発展の推進について

畜産研究所長 佐丸 郁雄

皆さん、新年あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願ひ申し上げます。



昨年は、新型コロナの感染が収まり景気が回復することを期待していましたが、引き続き感染が続く中、急激な円高による飼料・資材や燃料価格の高騰など、たいへん厳しい年になりました。

世界的にも、ウクライナ戦争や北朝鮮のミサイル・核開発、中国でのゼロコロナ体制緩和による感染拡大など、地政学的なリスクが拡大しています。今後、さらに、予想もしなかった様々なことが起こる可能性があると考えています。

グローバル化が進み、食糧や燃料を国外から、いつでも、いくらでも、安く手に入れることができると安易に考えていましたが、ちょっとした世界情勢の変化で入手が困難になることが今回はっきりしました。今後、国民全体で食料安全保障について真剣に考えていかなければなりません。

今年の干支は「癸卯」（キボウ、みずのとう）です。この前の癸卯は昭和38年でした。ちなみに、わたしもこの年に生まれ、今年還暦を迎えます。

本来、「癸」は「揆」であり、物事を「はかる」意をもっています。測るためには、標準や原則がなければなりません。このため「則（のり）」や「道

（みち）」の意味も含んでいます。したがって「癸」の意味するところは、「万事において筋道を立てて物を考え、処理していく」となります。

また、「卯」は、もともとは兎ではなく、「茆（かや）」という文字で、「草木の芽や葉が茂る」こと、「繁栄や繁殖」を表します。

そこで、「癸卯」の年は、「万事において正しく筋道を通してゆけば繁栄に向かう」ということになります。

近年、畜産を取り巻く状況は非常に不透明で、対応がたいへん難しい状況となっていますが、もう一度原点に立ち戻り、原理・原則にもとづいた行動・経営を心がけていきたいものです。



さて、昨年、「富山県農林水産試験研究推進プラン」が令和8年度を目標に見直し策定されました。その中で、当畜産研究所としては、以下の5つの推進目標を掲げて試験研究に取り組むこととしています。それぞれの目標ごとに現在取り組むこととしている主な研究課題を紹介させていただきます。

（1）高品質ブランド畜産の生産技術の開発

① 地域由来資源を活用した県産畜産物の差別化技術の確立

・肉牛への酒粕給与による高品質牛肉生産

- ・乳牛への酒粕やウイスキー粕給与
- ・乳牛への高糖分茎葉型飼料品種の給与
- ・肉豚への飼料用米給与による高品質豚肉生産



(2) 飼養管理の改善による生産性向上およびスマート畜産技術の開発

① アニマルウェルフェアに即した飼養管理技術の開発。

- ・和子牛の生理にあった人工哺乳
- ・乳用牛の初産分娩月齢早期化プログラム
- ・生産子豚の損耗低減技術や母豚の飼養管理



② ICT等情報先端技術を活用したスマート畜産技術の開発

- ・リモートセンシング技術や全球測位システムを用いた草地管理



(3) 気候変動や環境に配慮した持続的畜産の推進

① 環境負荷物質の低減技術及び飼養環境の衛生管理技術の確立

- ・微生物資材による畜産臭気低減
- ・電解水を活用した養豚現場での衛生対策

② 地球温暖化に対応した飼養管理技術の確立

- ・牛のメタンガス生産抑制
- ・乳牛の暑熱ストレス低減による生産性改善

(4) 技術開発を支える基礎的試験研究の強化

① 遺伝情報や生殖技術を活用した優良家畜選抜技術の開発

- ・ゲノミック評価と受精卵移植技術を活用した牛群の高能力化

(5) 種畜安定供給と維持管理の推進

① 優良種畜の生産

- ・系統豚やデュロック種雄豚等の供給

② 高能力牛の受精卵の生産

- ・性選別精液等を活用した高能力牛受精卵の供給

なお、これらの試験研究課題については、途中段階であっても、現場で活用できる結果が得られた場合は、順次、情報提供を行っていきます。

さらに、畜産環境の急激な変化に対応するため、必要な試験研究についても迅速に実施していきます。例えば今回の購入飼料等の高騰に対しては、「県産自給飼料多給型の黒毛和種肥育モデルの確立」や「子実用トウモロコシの栽培技術」などの試験研究に取り組むこととしています。

食は毎日の生活に欠くべからざるものであり、県民の命や文化に直接影響を与えるものですから、安全・安心で美味しい県産畜産物を安定的に供給し、県民の健康や幸福度を維持向上していくことは、地方自治の重大な使命であると考えています。

そのためには、行政、普及組織をはじめ、生産者・関係団体と密接に連携しながら、本県畜産業の持続的発展を推進していくことが重要です。

その中で、当研究所としては、試験研究課題の重点化を図るとともに中長期的視点を持ちつつ、緊急事態にも迅速に対応した、計画的・効率的な畜産技術開発に取り組んでいきたいと考えています。